例言

１．本書は 2016 ～ 2019 年度科学研究費助成事業（若手研究（A)）「対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究」（課題番号：JP16H05946, 研究代表者：丹羽崇史）の成果のうち、鋳造実験、および実験製作品の分析・検討に関する内容を主に収録したものである。上記課題のほか、以下の課題で実施をした実験の成果を含む。

・2012 ～ 2014 年度科学研究費助成事業（基盤研究（B)）「三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究」（課題番号：JP24320164, 研究代表者：谷豊信）

・2009 ～ 2012 年度科学研究費助成事業（若手研究（B)）「東アジアにおける失蝋法の出現と展開に関する考古学的研究」（課題番号：JP21720295, 研究代表者：丹羽崇史）

・髙梨学術奨励基金 2016 年度若手研究助成「土製鋳型の機能比較のための実験考古学的研究」（申請者：丹羽崇史）

２．本研究課題の経費は以下のとおりである。

12,480 千円（ 直接経費： 9,600 千円、間接経費： 2,880 千円 ）

2016 年度： 4,030 千円（ 直接経費： 3,100 千円、間接経費： 930 千円 ）

2017 年度： 2,730 千円（ 直接経費： 2,100 千円、間接経費： 630 千円 ）

2018 年度： 2,860 千円（ 直接経費： 2,200 千円、間接経費： 660 千円 ）

2019 年度： 2,860 千円（ 直接経費： 2,200 千円、間接経費： 660 千円 ）

３．本書第Ⅰ部は、これまで発表した日本語論文の内容を加筆修正し、中国語訳文を併記した。中国語訳は唐麗薇（大阪大学大学院博士後期課程）がおこなった。一部の論文は中国語版を発表しているが、全体の体裁・用語の統一を図るため、唐が改めて中国語訳をおこなった。各論文の初出はそれぞれの文末、および「本研究成果一覧」に記す。

４．本書第Ⅱ部は、2019 年 2 月 24 日に開催した国際研究会「陶笵技術の実験考古学」で報告いただいた蘇栄誉、張昌平、廉海萍より、当日発表原稿に加筆修正をいただいた玉稿を掲載した。日本語訳は大平理紗（京都府立大学大学院博士後期課程)、丹羽がおこなった。

５．本書「研究の経緯と概要」「例言」の中国語訳は唐がおこなった。

６．「実験製作品一覧」の写真の撮影は、奈良文化財研究所（奈文研）写真室による。その他の写真・図については、各論文に出典等を記す。

７．本書の編集は丹羽がおこなった。

８．本研究課題を実施するにあたり、以下の個人・機関の方々に多大なる協力をいただいた（五十音順・敬称略)。

(共同発表者・共同研究者）赤田昌倫、新郷英弘、田中麻美、長柄毅一、樋口陽介、廣川守、三船温尚、八木孝弘

(国際研究会報告者・寄稿者）蘇栄誉、張昌平、廉海萍

(調査協力者）荒木臣紀、安藤智子、飯塚義之、石谷槙、伊藤幸司、今津節生、内田純子、海原靖子、王金平、王先福、太田三喜、隠岐まこ、大日方一郎、賀利、河合咲耶、河野一隆、川村佳男、菊池望、木川りか、金東河、金武重、胡趙建、小泉武寛、苟歓、黄金洲、黄盼、高振龍、郜向平、坂川幸祐、佐々木英理子、新尺雅弘、鈴木舞、谷豊信、田林啓、田村朋美、譚徳叡、崔文禎、陳彦如、坪井久子、徳留大輔、橋詰文之、堀内快、村上由美子、村野正景、八波浩一、山内紀嗣、山中理、山本堯、葉恵玲、吉澤悟、李点点、李暉、林玉雲、渡辺貫太

Amand A.Imai, Susan L.Beningson

芦屋釜の里、和泉市久保惣記念美術館、出光美術館、永青文庫、河南省文物考古研究院、九州国立博物館、京都大学総合博物館、京都文化博物館、国立慶州文化財研究所、湖北省博物館、泉屋博古館、中央研究院歴史語言研究所、鄭州大学歴史学院、天理大学附属天理参考館、東京国立博物館、富山大学芸術文化学部、奈良国立博物館、白鶴美術館、山西省考古研究所、上海博物館、湖北省博物館

Asian Art Museum, Brooklyn Museum, The Metropolitan Museum of Art